

令和4年産大崎地域の 大豆作技術情報(第4号)

令和4年8月18日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- ・天候に留意し、干害・湿害対策を行いましょう。
- ・病害虫防除を適期に行いましょう。

1 気象経過

- ・7月13日から16日に記録的な降水量となりましたが、その後の天気は安定し、7月第5半旬は平年並みの気象経過となりました。
- ・7月第6半旬は、平年より気温がやや高く多照となりました。その後、8月第1半旬から第3半旬までは、気温はほぼ平年並み、日照時間と降水量は平年よりやや少なく経過しました。

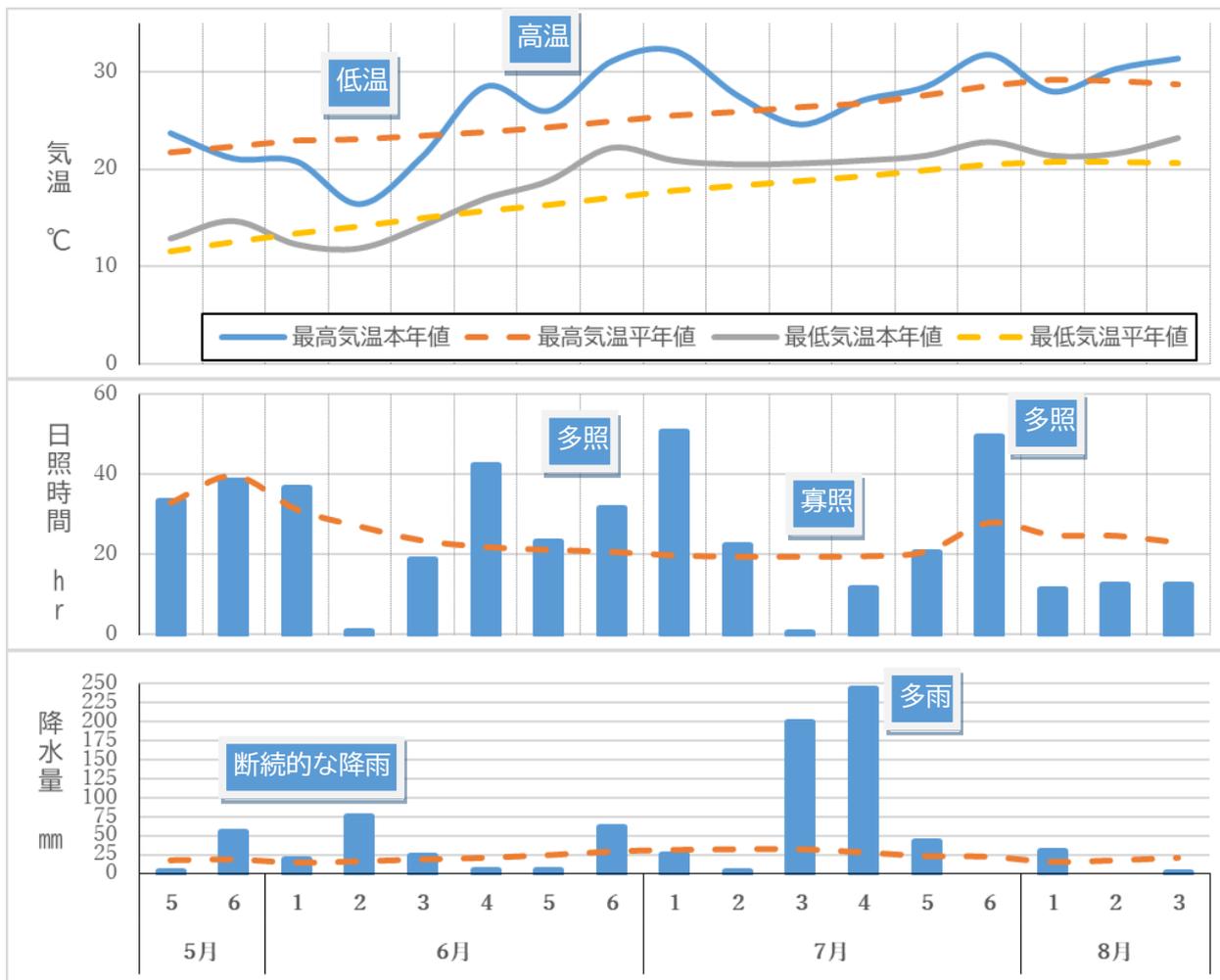


図1 5月第5半旬～8月第3半旬までの気象
※実線又は棒グラフが本年値，点線は平年値

2 生育概況

8月10日の調査では、ほ場による差が大きく、茎長はミヤギシロメでは平年並み、タンレイ、タチナガハは平年よりやや短く、きぬさやかは平年より短くなっています。主茎節数は、きぬさやかは平年よりやや少なく、そのほかの品種では平年よりやや多くなっています。分枝数はミヤギシロメとタチナガハで平年よりやや多く、タンレイはやや少く、きぬさやかはかなり少なくなっています。

開花期は全ての調査ほ場で平年より遅くなっています。

表1 生育調査ほの生育調査結果及び開花期

地区名 品種名	区分	播種日	開花期	8月10日		
				茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年	5月25日	7月28日	58.2	15.1	3.2
	平年比	4日早い	1日遅い	90%	103%	89%
古川 ミヤギシロメ	本年	6月2日	8月7日	83.3	17.0	4.3
	平年比	平年並み	2日遅い	99%	107%	114%
三本木 きぬさやか	本年	6月21日	8月7日	35.6	11.3	1.8
	平年比	14日遅い	5日遅い	62%	91%	60%
小野田 タチナガハ	本年	6月17日	8月3日	54.9	14.0	2.7
	平年比	7日遅い	2日遅い	92%	103%	107%

※ 平年比は、前5カ年（平成29年～令和3年）の平均値との比較



写真1 古川ミヤギシロメ



写真2 小野田タチナガハ

3 今後の栽培管理のポイント

(1) 干害・湿害対策の実施

開花期以降（7月下旬～9月上旬）は、大豆の養水分吸収が多くなる時期であり、土壌水分が不足すると落花・落莢が多くなります。降雨がない日が続く場合は、土壌表面にしみ出す程度まで、排水溝や畦間内に通水を行いましょう。

一方で、降雨が続く場合は降雨の前後に排水溝や明きよを点検し、排水が滞らないようにしましょう。また、水が溜まった所は溝を切り、明きよにつなげ、排水を促進しましょう。

(2) 病虫害防除

1) 紫斑病 開花期後 20～40 日に防除

- ・「タンレイ」は紫斑病抵抗性が“中”であり、連作ほ場や成熟期に降雨が多い場合は多発しますので、2回防除を徹底しましょう。
- ・同一系統の薬剤を多数回散布すると耐性菌が発生する恐れがありますので、2回防除の場合は異なる系統の薬剤を使用しましょう。
- ・収穫が遅くなると紫斑粒の割合が高まりますので、適期収穫に努めましょう。



写真3 紫斑病

2) マメシクイガ 8月下旬に1回目、その7～10日後に2回目の防除

- ・羽化した成虫やふ化直後の幼虫に対する防除が効果的です。
- ・大豆を連作すると、越冬幼虫が増加し、食害の発生が多くなりますので、連作ほ場の発生状況に注意しましょう。



写真4 マメシクイガ幼虫

3) フタスジヒメハムシ 8月下旬～9月上旬に防除

- ・8月下旬頃までの若莢を食害することで、そこからカビが入り込み、汚粒（黒斑粒）や腐敗粒となります。作付け初年目から被害が出やすい傾向があります。



写真5 フタスジヒメハムシ成虫

4) ジャガイモヒゲナガアブラムシ 8月～9月に防除

- ・8月下旬～9月上旬に急激に発生すると吸汁害に伴う早期落葉により、収量・品質に大きな被害が出ます。



写真6 ジャガイモヒゲナガアブラムシ成虫

5) カメムシ類 他の主要害虫との同時防除

- ・子実を吸汁加害し、夏季の高温で発生が多くなる傾向があります。



写真7 ホソヘリカメムシ成虫

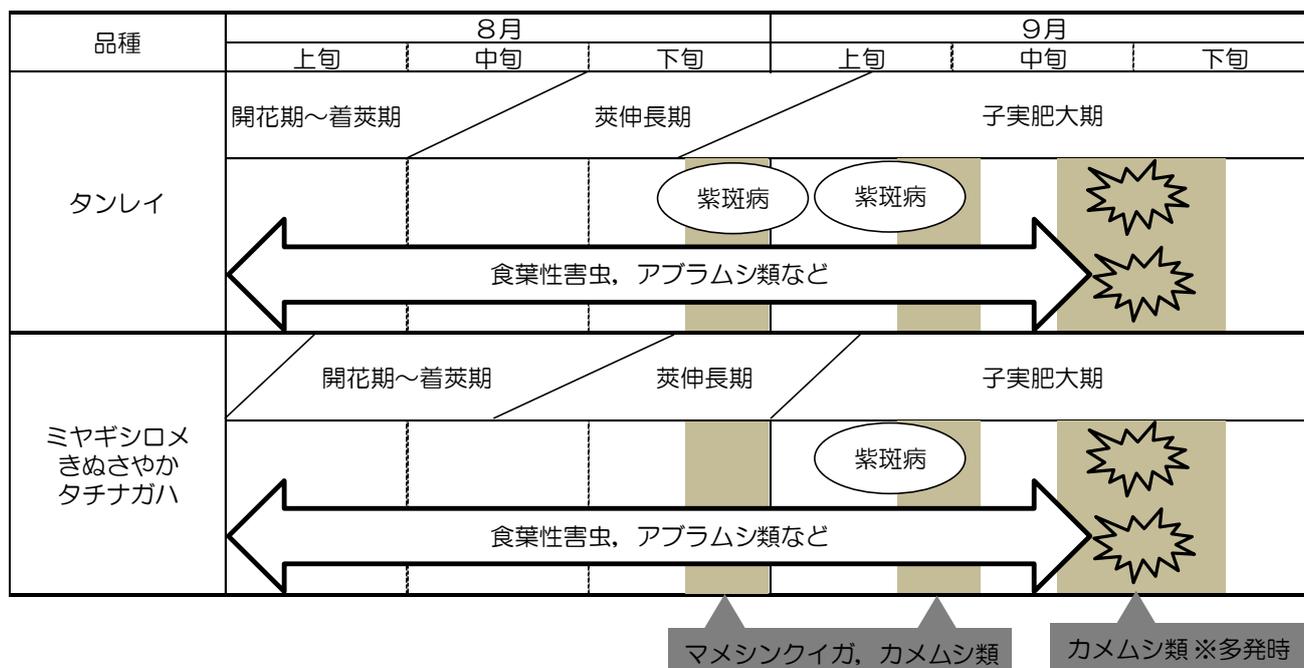


図2 病虫害の防除体系例

東北地方 1 か月予報
(8月13日から9月12日までの天候見通し)

令和4年8月11日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	20	40	40
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	40	20

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北太平洋側	20	20	40
2 週 目	東北太平洋側	30	50	20
3~4週目	東北太平洋側	20	40	40

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆**農薬危害防止運動(6月1日~8月31日)**◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病虫害が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索してください。